

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101606		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム雅荘		
所在地	滋賀県大津市坂本6丁目32-49		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9		
訪問調査日	平成23年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「その人らしく」過ごしていただく為には、今どのような支援を必要としているかを全ての職員で考えながらの介護を行っています。  
これからも、利用者・家族・地域・事業所と協同しながら生活を送っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和風平屋の落ち着いた造りで、ダイニングは広く、日当たり良く明るい。華美な装飾はせず、家庭的な雰囲気への配慮がされている。ゆったりと思いいれにすず利用者の「その人らしさ」を目指すホームの姿勢が見られている。利用者の家族との連携を深めるために、家族の来訪時の対話の記録をし情報を共有している。利用者の心身の情報も詳しく伝えている。家族からも丁寧な対応を評価されている。地区の医療・福祉事業所の連合会(おむすびネット)に参加し、施設を巡るウォークラリーなどに協力している。近隣の人々との交流も多くなり、共同の防災訓練も行われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく健康に・快適に・安心に』の理念を掲げ、会議等で共有して実践につなげている。	ホームの理念が玄関に掲示され、パンフレットにも示されている。1,2階それぞれのユニット会議でも、話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の運動会等の催しに声を掛けて頂き職員が参加している。又、買物等で地域の人々と日常的な交流を図っている。	地域の対抗運動会に参加し、地区の「おむすびネット」のウォークラリーにも協力している。近隣の人の訪問や共同の防災訓練なども行われている。	通りがかりの地域の人にホームを理解されるよう、介護相談や行事を玄関前に掲示するなどの工夫に期待する
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症相談窓口にも登録しており、地域の人々に向けて活かしている。また地域の医療・教育・介護系施設の管理者が集まる会合に参加し情報共有等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でユニットでの取り組み状況等を報告、各種助言等をいただきサービスの向上に努めている。	地域包括支援センターや自治会・家族代表などの参加が得られ、行事などの情報交換が行われている。ボランティアの情報なども得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	過去に介護相談員の派遣事業を積極的に取り入れ、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課による情報提供会が行われ、制度の動向などがもたらされている。入居希望者に関する相談・問い合わせなどの連携が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する勉強会を行い、禁止の対象とある具体的な行為を全職員で把握している。 夜間の防犯上必要な時以外は玄関も不要な施錠は行っていない。	職員会議において、マニュアルをベースに勉強会が行われ、理解が深まっている。センサーマットの使用についても、検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等に当てはまる恐れがあるものはその都度、管理者を交えて話し合いを行っている。また虐待についても、職員の言動や行動に対して日頃から注意を促し意識の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を活用されている利用者も居られ、その後見人や市社協の担当とコミュニケーションを図り学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前から説明を行い、利用開始時に重要事項説明書や契約書により説明し、質問があれば入居後も随時返答を行い理解して頂く事に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、利用者や家族から意見を集めると共に、重要事項説明書に苦情相談窓口を掲載している。また家族からの意見は職員間で共有し、返答を行う様にしている。	家族の来訪時に、情報交換を行い、記録するようにしている。家族との連絡用のファイルを職員間で共有して、情報の漏れのないようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットの定例会議には管理者も参加した上で意見交換を行っている。また法人内の管理者会議では施設での行事や問題等の報告も行っている。	定例会議においては、利用者個々の対応を全員で討議し、課題を煮詰めて実施につなげている。職員間の提案も多数出され、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業年数により定期昇給や退職金制度の導入等職員に対する労働面の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所属するGH協議会の研修会に参加させたり、事業所内でも約2カ月に1回のペースで勉強会を行いそれぞれのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、他事業者との相互訪問を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接にて困っている事柄や解決したい事等をしっかりと傾聴し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を考えておられる段階での不安・疲労感を十分に受け止め、家族の悩みを聴き、受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でのご本人の困っている事、家族が思い悩んでいる事を傾聴し、そのうえで雅荘で支援可能なサービスか否かをお伝えし、判断をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の献立や調理時のアドバイス等をいただいたりしている。日々の暮らしのなかでの喜びや悲しみ、怒り等の感情を受け止め、共感するように努めており、人生の先輩として助言を頂くことも多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡等でご本人の現在の状況を家族に知っていただき、ご本人に現在必要な支援を共に話し合い、一緒に支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前から馴染みのある医院に通院したり、通年行事として行っている墓参り等の支援に努めている。ご友人からの電話も掛かってきたりしている。	入居前に行っていた美容院に外出したり、散歩や車による外出が行われている。花見・足湯・公園など、職員との話によって外出することも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人の時は声掛けにて他の利用者と交えて話題を提供しながら、お互いに話がし易いように援助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前に入居されていた方がボランティアの紹介を行ってくださったりと、継続した付き合いを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや会話の中からお本人の思いや希望を聞きとれるようにしている。困難な場合はお本人にとってより良いサービスが提供できるように職員間で話し合っている。	意向や意志の確認には日々の生活の中から表情やしぐさ、態度などから汲み取り、理解に努めている。また、情報シートの生活歴からその人の思いや何をしたいかの把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りを行い、入居後も引き続き聞き取りを行っている。得られた情報は記録に残し、日々のサービスに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調の変化を記録に記入し、職員間で把握を行い、特に留意しなければならない方はその場で確認しあっている。又、現状の残存能力を会議で検討し、ケアに活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者からは直接、家族からは入居時や面会時に意向を聴くようにしている。それに基づき介護計画を立案し、職員が会議で話し合い実行している。	前もって家族の要望を把握したうえで介護計画作成担当者により作成した計画に対してユニットリーダーや介護職員、介護支援専門員などの参加によりカンファレンスが開催されている。	介護計画作成に際し、担当者会議に利用者本人や家族の参加を出来る限り得て、開催することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や発言の内容を各利用者毎のファイルに記録し、職員がいつでも確認出来るようにしており、日々のサービス提供に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望・要望に出来る限り応じるべく支援を行っている。利用者の居室で宿泊していただく事も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のなかにあるスーパーや散髪屋を利用してグループホームでの生活を楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者又は家族の意見を聴いて主治医を決定している。	かかりつけ医の継続の説明は入居時に行っている。全利用者へはそれぞれのかかりつけ医の往診が行われているが、必要に応じて受診の同行も行うなど、臨機応変な対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	送り等で体調等の情報を職員間で共有し、利用者がかかっている医療機関の看護師と状態等を相談しながら健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、病院関係者を含めたカンファレンスを必要時に設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に家族を含めた関係者と密に話し合いを行い、利用者にとってより良い支援方法を話し合っている。	現段階では事業所として看取りに対しての検討はなされておらず、今後の課題となっている。	今後、利用者の高齢化、重度化により必然的に看取りの必要性が出てくると思われる。早い段階から、話し合いを重ね、事業所としての方向性を明らかにするなど、支援に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去に消防署の協力のもと、応急手当や初期対応の訓練を行ったが、継続的に行っていない。今後は定期的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っており、地域の方々に参加していただいた事もあった。その際は、より具体的な状況下でどうすれば連携が取れるか、という活発な議論ができた。	病院や利用者の連絡先、職員の連絡網などをパウチングして見やすい場所に用意している。また、救急マニュアルを各ユニットに置き、緊急時に備えている。火災訓練は年2回、地域の人たちとも一緒に実施している。	火災のみならず、地震や風水害など様々な災害や想定による避難訓練を行うほか、地域と防災協定を結んだり、職員全員が防災意識を持ち、さらなる災害対策に取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲の状況を見て、ご本人にだけ聞こえるような声掛けをしたり、記録の管理を行っている。血圧や体温もご本人にだけ分かるようにしている。	年長者としての利用者に対して敬意を払い、なにげない言葉かけや対応にも配慮している。入浴や排泄介助に際しても、前もって同性介助の要望を聴き取るなど羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活のなかで出来る限り利用者を選択していただけるように選択肢を増やしている様話し合いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でご本人のこだわりや興味のある事に関してはそちらを優先して、その人らしい生活ができる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が望まれる理美容店がある場合、そちらを利用していただいたり等、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。更衣時はどの服を着るかもご本人を選んで頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立を利用者と一緒に考え、利用者の体調を考慮しながら一緒に食事の準備を行っている。	日に2回利用者と職員で買い物に出かけ、食材の買い出しを行っている。利用者の要望に則した食事の提供を心がけ、利用者も食事作りに参加して、盛り付けや洗い物など、出来ることをやるように努めている。	朝食は毎日同じパターンとなっており、利用者の意向を吸い上げながら、様々な食材を活用した献立の工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を利用者個々に記録を行い、必要量が確保出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を用いて、ご本人の力量に応じた個別の方法で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意の無い方でも出来るだけトイレで排泄を行っていただけるように個々の排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。	排泄の自立の取り組みとして、トイレの誘導や昼間は布パンツで過ごすなど、その人の排泄パターンを把握した支援を行っている。実際、入所後にオムツはずしに取り組み、布パンツで過ごせるようになった利用者がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質や乳製品を積極的に取り入れ、自然排便を行っていただけるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせて入浴していただいたり、タイミングに合わせて声掛けを行い、入浴していただいている。	入浴は10時から17時まで実施しており、利用者は概ね3日に1回の入浴としている。介助が必要な場合には、1階ユニットのリフト浴を使用し、安全な入浴を行うほか、入浴剤を活用して楽しめる入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設定しておらず、個々の生活習慣に合わせて休息していただいております。いつもと違い落ち着かれない時は会話等を行い、ゆっくりと休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より取扱の説明を受けて、職員間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除・食事の準備等、生活に関する事や週に1回のサークル活動等、充実した生活を送っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出していただけるようにしている。利用者毎に頻度の偏りがないようにチェックシートにより確認を行い、職員からも声掛けを行っている。又、外出の計画を行い普段は行けないような場所にも個々の希望を聴取しながら行っている。	日々の散歩や買い物に加え、花見や紅葉狩りなど、自然が多い地域の特色を生かして様々な場所に出かけている。さらに、一人ひとりに要望を聞き、普段行くことが少ない希望の場所に職員とともに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、お預かりしているお金で欲しいものや必要なものを購入していただいている。又、個人の能力に応じて管理できる方は現金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば友人や家族に電話を掛けていただいている。正月には年賀状を家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに花を飾ったり、季節や行事に沿ったものを過度にならないように飾っている。	デイルームは広く取られ、明るく日当たりも良い。テーブルや椅子、ソファなどにより思い思いに過ごすことが出来る。装飾は華美にならないよう家庭的な雰囲気を大切にしており、ところどころに和風の坪庭を配し、落ち着いた雰囲気が得られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル席・ソファ・和室があり、気の合った利用者同士で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用されていた家具や衣類等、慣れ親しんだものを持ちこんでいただき、居心地良く過ごして頂いている。	馴染みの品物や家具などを持ちこみ、ベッドの向きなども、休みやすいようなレイアウトに配慮しており、快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、手すり等も配置している。居室の家具の配置も危険が無いように各利用者に合わせて配置している。		